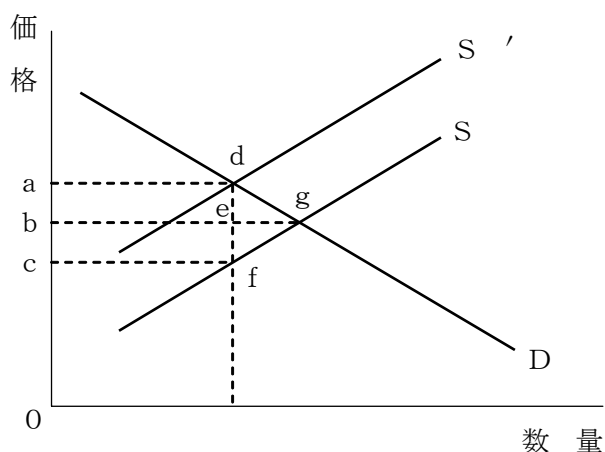


## I 直前期！チェック問題

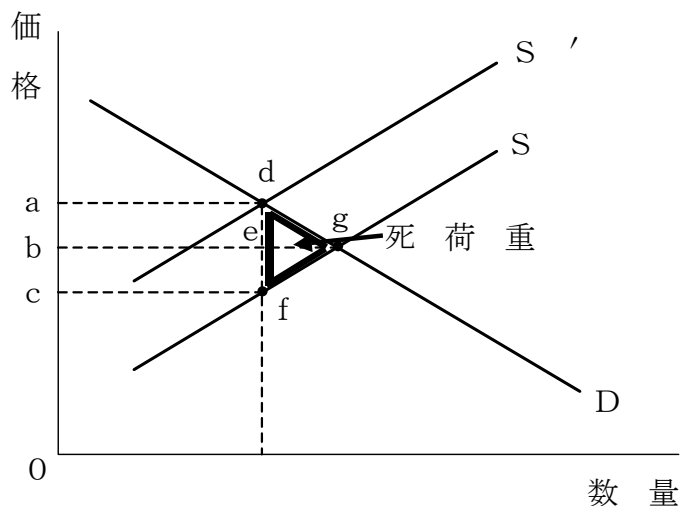
正誤を○，×で答えよ。

- 1 ある財の市場の需要曲線Dと供給曲線Sが、当初、図のように与えられており、政府がその財の生産に課税したため供給曲線がS' にシフトしたとする。この課税に伴う余剰の損失は、図形d g fとなる。(H13 15 問改題)

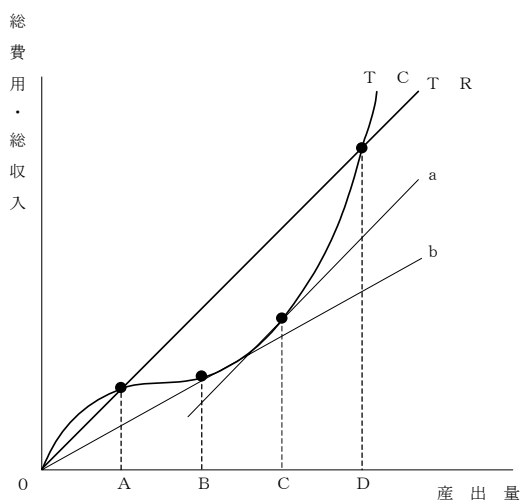


【正解】 ○

従量税の導入によって過少生産となるので、資源配分の非効率性（＝死荷重）が発生する。つまり、従量税の導入によって、取引量が過少となり、労働や資本が余ってしまう。その結果、失業問題や遊休設備などの問題が発生するのである。

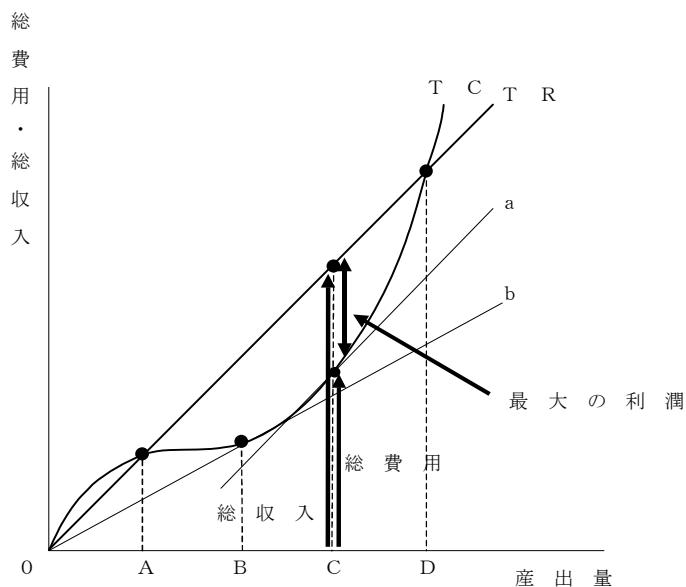


- 2 完全競争企業の総費用曲線TCと総収入線TRが図のように与えられているとする。ただし、図中、補助線aは、産出量CでTCに接し、かつTRに平行な直線であり、補助線bは、原点から引いた直線で、産出量BでTCに接しているものとする。このとき、利潤最大化の生産量はBである。(H13 21 問改題)

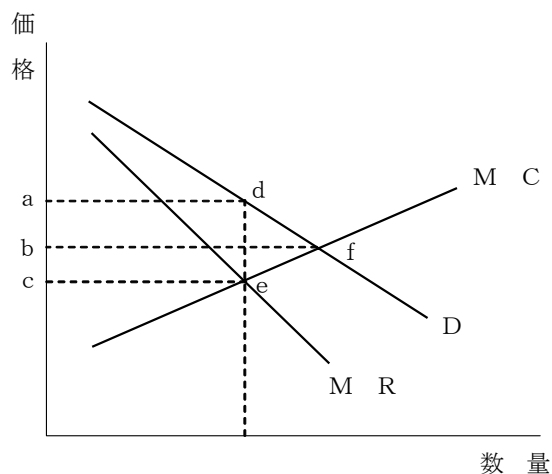


【正解】 ×

利潤最大化条件は、価格と限界費用の一致であるので、利潤最大化の生産量はCである。

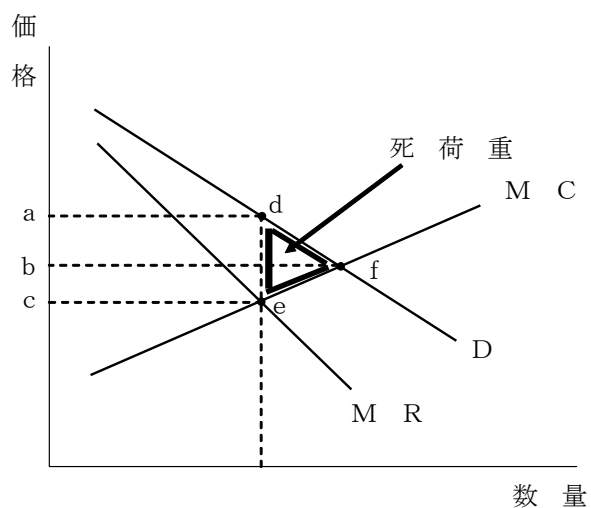


- 3 ある独占企業の限界費用曲線MC、限界収入曲線MR、この独占企業が直面する需要曲線Dが図のように与えられているとする。このとき、この独占企業が利潤の最大化を実現した場合の余剰の損失は、図形d f eとなる。(H13 24 問改題)

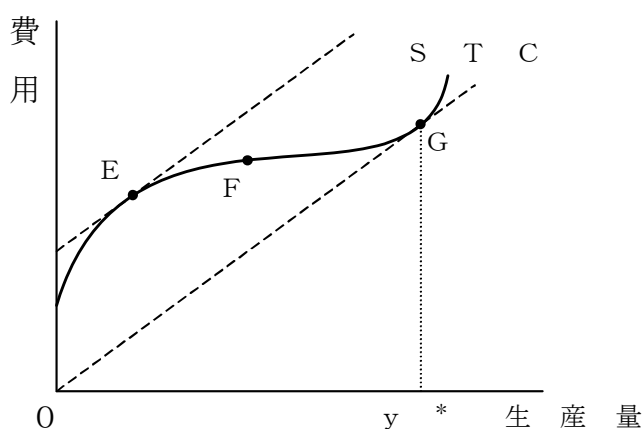


【正解】 ○

「余剰の損失＝独占の厚生損失」または「死荷重 (deadweight loss)」の大きさは、図形d f eの大きさとなる。独占市場の場合、過少生産となるので、資源配分の非効率性が発生する。

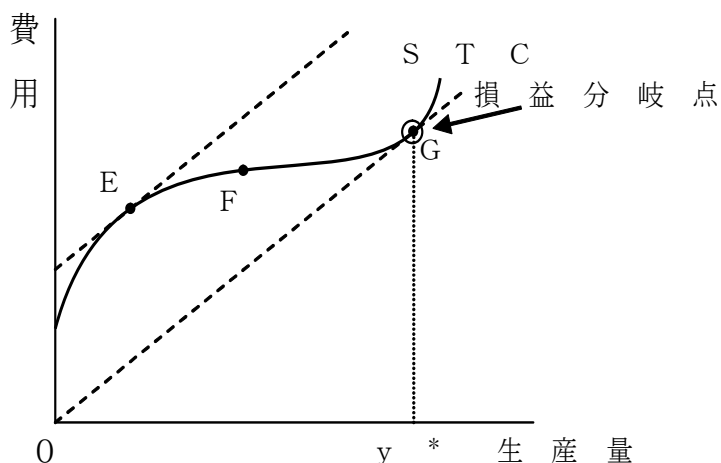


- 4 ある企業の短期総費用曲線  $STC$  が次のように与えられているとする。下図の  $STC$  上の  $E$  点と  $G$  点での接線の傾きは等しく、 $F$  点での接線の傾きはこれらよりも小さい。また、 $G$  点での接線は原点を通り、 $STC$  は  $G$  点以外では、この接線よりも上方に位置している。ここで、この企業の生産量  $y^*$  は、この企業にとっての操業停止点に対応する。(H14 19 問改題)

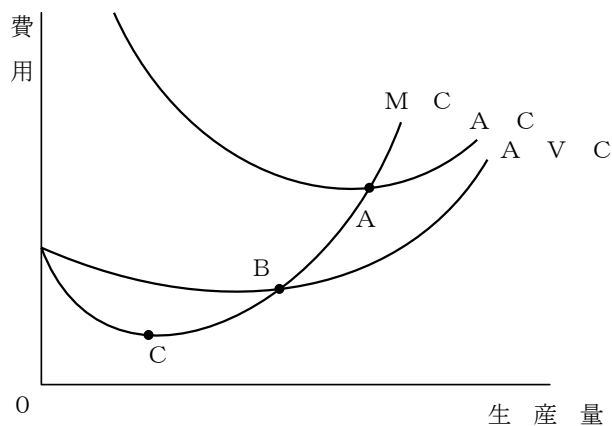


【正解】 ×

生産量  $y^*$  に対応する  $G$  点は、操業停止点ではなく、損益分岐点である。つまり、生産量  $y^*$  の状況では、平均費用が最小になっている。

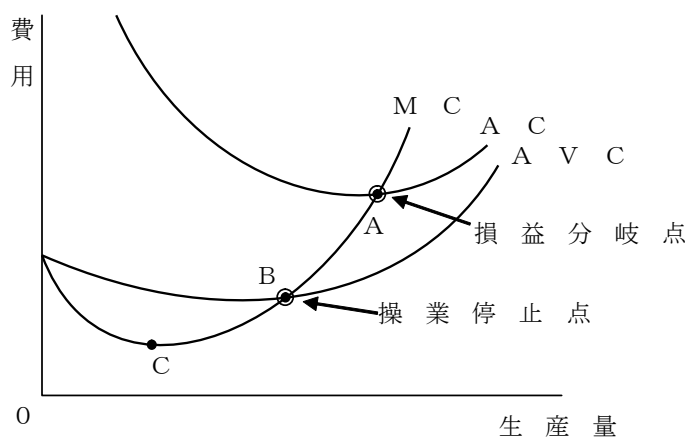


- 5 完全競争市場において、ある企業の平均費用曲線  $AC$  と平均可変費用曲線  $AVC$  および限界費用曲線  $MC$  が次のように与えられているとする。このとき、操業停止点は  $A$  点、損益分岐点は  $B$  点である。(H14 20 問改題)

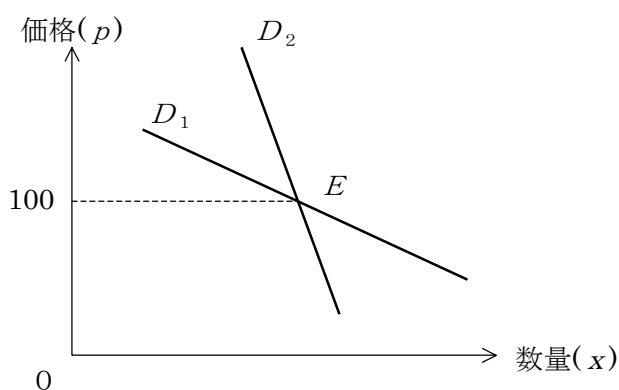


【正解】 ×

$A$  点は損益分岐点、 $B$  点は操業停止点である。

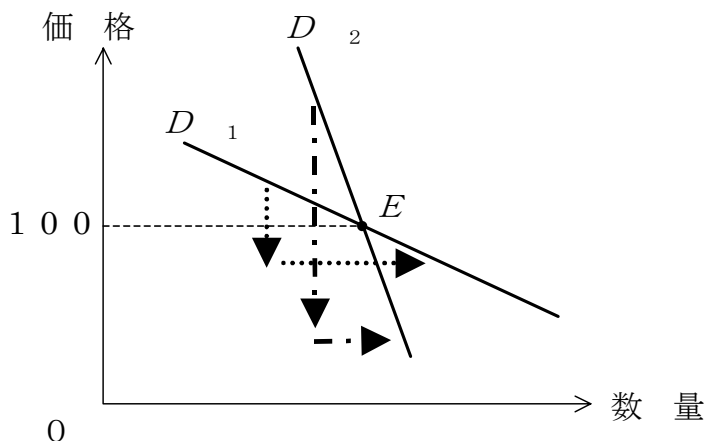


- 6 第1財と第2財の需要曲線がそれぞれ直線 $D_1$ 、 $D_2$ で表され、下図はそれらを同じ図に書いたものである。2財ともに供給曲線は $p=100$ である。従って $E$ 点で両市場とも均衡している。このとき、 $E$ 点での需要の価格弾力性は第1財の方が第2財よりも大きい。(H15 12問改題)

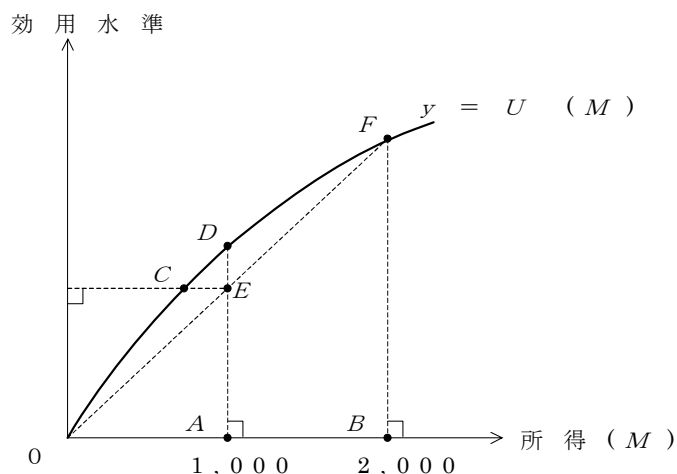


【正解】 ○

第1財の需要曲線の傾きの方が、第2財の需要曲線の傾きよりも緩やかであるため、第1財の方が需要の価格弾力性は大きい。

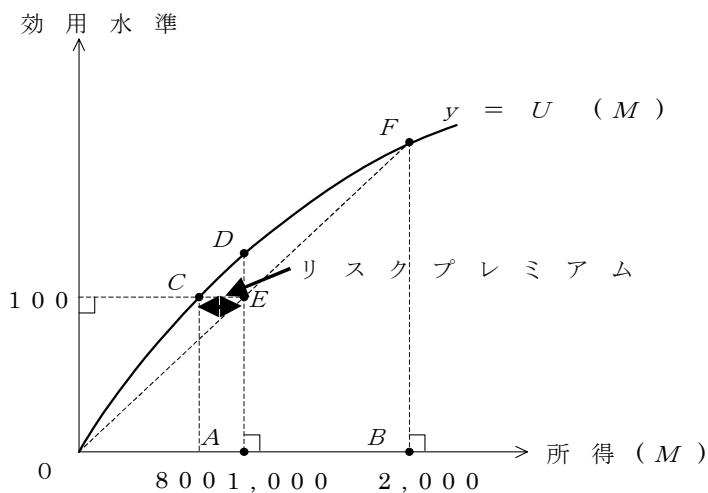


- 7 ある個人の所得 $M$ のときの効用関数 $U(M)$ が、下図のように表されるものとする。  
このとき、この個人は危険回避的投資家であると判断される。(H15 21 問改題)



【正解】 ○

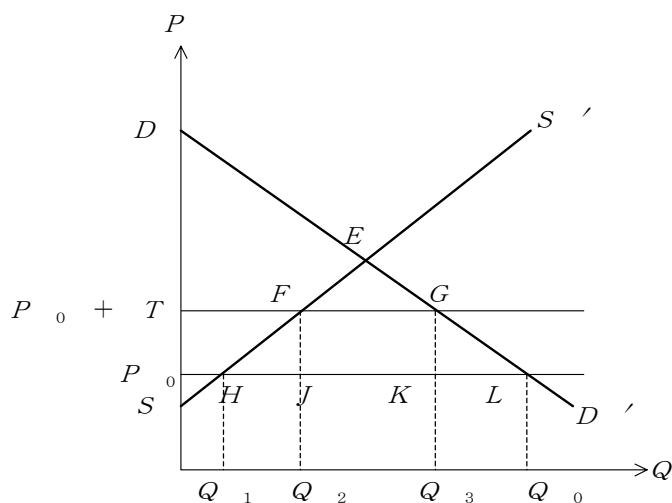
与えられた効用関数の形状から、この投資家は危険回避的であると判断される。また、参考までにリスクプレミアムは $CE$ の大きさになる。



(補足説明)

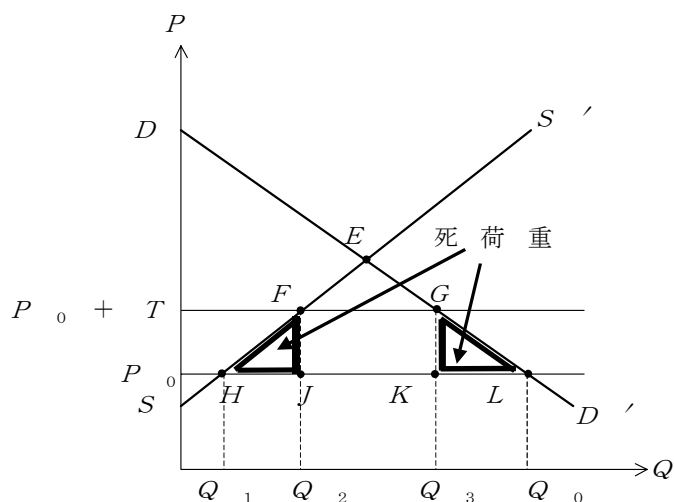
- ・100 の効用を得ようとするとき・・・
- ⇒ 確実に所得を保障してくれるのであれば 800 でよい。
- ⇒ 不確実性を伴うならば、期待所得は 1,000 だけ必要となる。
- ⇒ つまり、不確実性を伴う場合、余計に 200 だけの所得を上乗せしてくれないと、100 の効用が得られないのであり、この 200 がリスクプレミアムとなる。

- 8 下図は、ある小国の輸入競争財の市場を表したものであり、 $DD'$ は需要曲線、 $S$   $S'$ は供給曲線である。いま、国際価格  $P_0$  のもとで輸入が行われているが、政府が単位当たり  $T$  円の輸入関税を課し、国内価格が  $(P_0 + T)$  に上昇したとしよう。このとき、余剰の損失は図形  $E G F$  である。(H16 9 問改題)



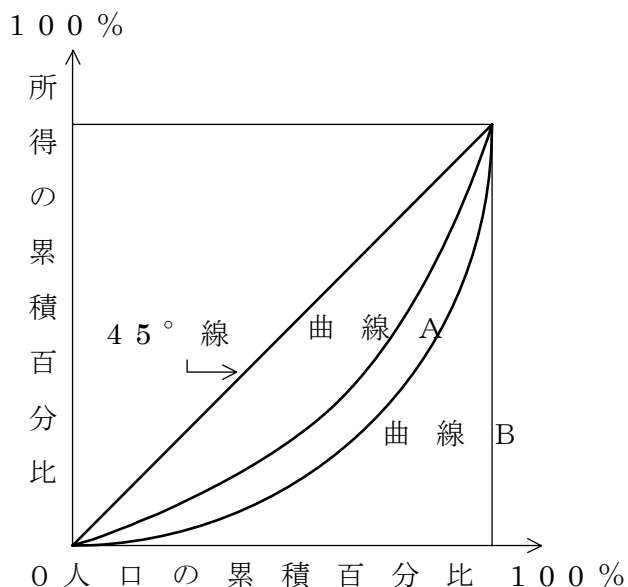
【正解】 ×

関税による余剰の損失は、図形  $F J H$  と図形  $G L K$  の合計である。



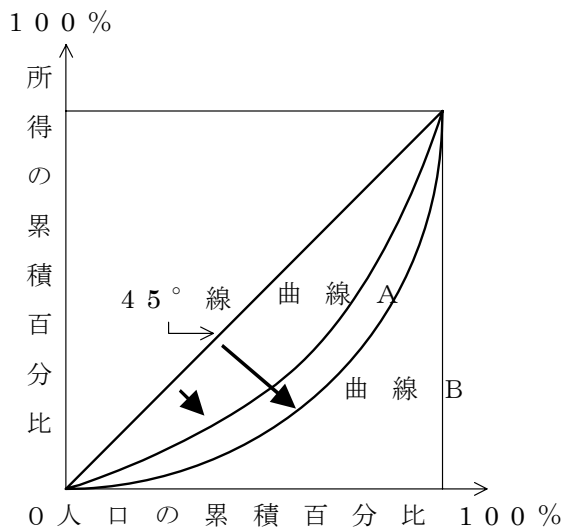


- 9 下図の曲線Aと曲線Bは、それぞれA国とB国の人口の累積百分比と所得の累積百分比の関係を示したローレンツ曲線である。このとき、A国はB国と比べて所得は平等に分配されている。(H16 12 問設問 1 改題)

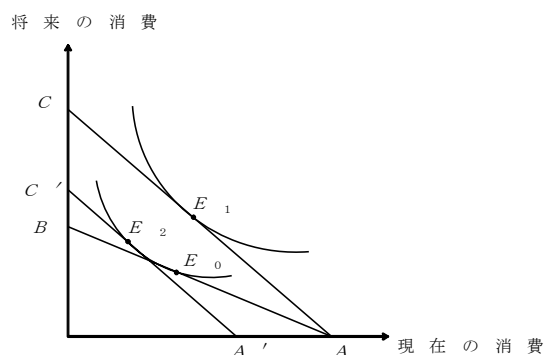


【正解】 ○

A国のローレンツ曲線の方がB国のローレンツ曲線に比べて45度線に近いので、所得が平等に分配されているといえる。

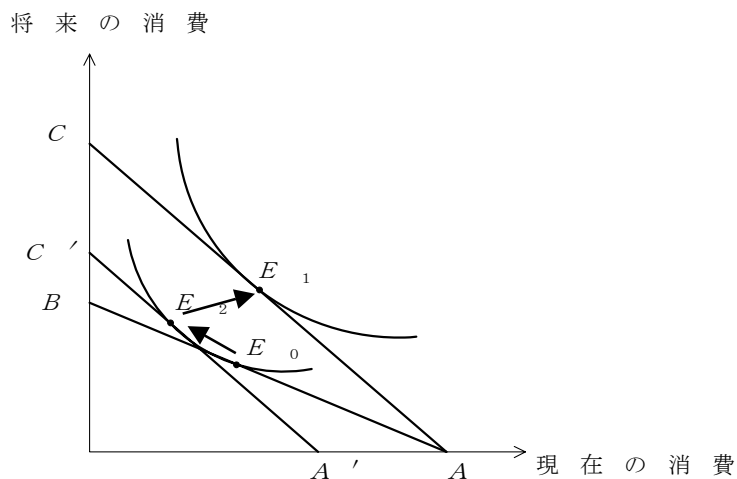


10 消費者は、貯蓄を通じて、現在の消費水準と将来の消費水準の最適な配分を模索する。下図では、現在の消費水準と将来の消費水準の間の予算制約線が、 $AB$ で表されている。利子率が上昇した場合、所得効果は $E_0$ から $E_1$ まで、代替効果は $E_1$ から $E_2$ までで表される。(H16 20 問改題)



【正解】 ×

代替効果は $E_0$ から $E_2$ まで、所得効果は $E_2$ から $E_1$ までで表される。



(補足説明)

・利子率が上がると・・・

- ① 代替効果：損得勘定  $\Rightarrow$  貯蓄しないともったいない！！  $\Rightarrow$  現在の消費減少  
 $\Rightarrow$  点 $E_0$ から点 $E_2$
- ② 所得効果：損得勘定抜きで好きなことをやる。  
 $\Rightarrow$  生活が豊かになったのだから現在の消費を増やそう！！  $\Rightarrow$  現在の消費増加  
 $\Rightarrow$  点 $E_2$ から点 $E_1$